

### 3 学校評価の全体考察

#### (1) 学校についての項目から

学校行事や活動の充実については、保護者、職員ともに良い評価を得ました。コロナが5類に移行したことを受け、活動の精選を行い、運動会の全学年同時開催やかがやき発表会、校外学習、校外活動等の様々な活動を、より児童が主体的に取り組むことのできる内容を展開した成果であると考えています。また、子どもたちの安心、安全については、保護者参加の引き渡し訓練、交通安全教室や災害訓練（消火訓練、起震車による地震体験、煙幕体験等）、不審者対応訓練などあらゆる場面を想定した安全教育を展開してまいりました。引き続き、安全教育を推進してまいります。

反面、学校内の施設整備や清潔な教育環境の維持については保護者、職員ともに昨年度より低い評価となりました。PTA本部を中心に保護者のボランティアとともに普段行き届かない場所の清掃や図書室の整備をしたり、1年生の教室のロッカーの修繕や床研磨、保健室の床の張替えをしたりする等行いましたが、より一層環境の整備に努めてまいります。

#### (2) 職員についての項目から

教職員は、保護者や地域の方々の相談や悩みごとなどへの対応について、真摯に対応してきた軌跡が評価されたと考えます。今年度は、地域自治会のフェスティバルや東部公民館祭りへの参加など、一時休止していた活動を再開し、地域との交流を深めてまいりました。校外活動の充実を先に述べましたが、地域の農家見学やスーパーマーケット見学、社会福祉協議会の協力のもと行った昔遊び体験、地域の商店や保育所等の町たんけん、消防署見学など地域に育つ児童の体験的学びを多く展開しました。その中から地域の皆さんの声や保護者の声を伺い、学校教育に生かしてまいりました。

児童に分かりやすい授業の工夫については、児童の実態を把握するために、全国学力状況調査の結果を生かした授業の展開、高学年の教科担任制の導入を試みました。また、タブレット端末の有効活用を検証し、分かる授業を構築するために、校内研究会を実施し、職員間で授業改善の研修を行いました。その他、教員個々に指導力の向上のため目的を持って、校外研修に参加したり、夏季休業中には、全職員が外部講師を招き外国語教育の指導やアレルギー対応の研修を行ったりしました。

児童理解については、スクールライフノート（アプリ）「心の天気」を活用し、児童の内面を把握するように取り組んでいるところです。いじめ問題に対しては、生徒指導部会を月2回実施し、事案によっては、臨時に関係職員を集め、組織的、早期対応を心がけました。引き続き一人一人に寄り添った指導を目指したいと考えています。

#### (3) 地域・家庭との連携についての項目から

情報発信はホームページやメール、学校だよりの発行を活用しました。ホームページでは、日々の学校での活動の様子を毎日更新し、学校だより・学年だよりで

は、保護者の皆様に児童の活動の様子が伝わるように作成してまいりました。昨年度は、毎日平均450アクセス程度でしたが、今年度は500アクセスに増加しました。また、保健日より、給食日よりや献立表も季節を感じ学校生活が楽しくなるような内容の構成をし、心身ともに明るく健康な生活ができるよう努めてました。

学校運営協議会を軸に、地域支援コーディネーターの呼びかけによる朝学習の保護者ボランティアやミシンボランティア、図書ボランティアさんの活動、社会福祉協議会の皆様による敬老の集いや昔遊びの講師招集、自治会長様、地域ボランティアの皆様による児童の見守りを等たくさんのお力をお借りいたしました。また、スリム化を図りながら活発なPTA活動展開したPTA本部役員等と関わりを持つことにより家庭・地域・学校がより深くつながることができたのだと実感しております。

#### (4) 児童の評価から

約9割近くの児童が「学校が楽しい。」と回答しており、学校教育目標「学校だいすき東っ子」を達成できつつあると自負しております。同様に「友だちとなかよくしていますか。」の問いにも9割以上の児童が仲よくしていると答えており、素直で明るい東っ子は、保護者や地域の皆様に支えられながら、互いを思いやり、すくすくと育っています。

課題としては、学習に関する項目において、自ら考えを公表できると回答する児童は、昨年度までとほぼ同様で約6割程度に留まっており、手立てを講じてもお、変容が見られない結果となり、次年度は、発表する楽しさを味わわせる授業構成、教師の発問の工夫、友達の考えを聞く態度・気持ちへのアプローチを考えながら、具体的な指導を行っていきます。また、児童自身に関する質問の結果を受け、自己肯定感を高めることが必須であると考えます。そのために、あらゆる教育活動の場面で「褒める」「認める」「励ます」ことを教職員がより一層心がけていきます。また、学習の習得状況優劣だけでなく、学びのプロセス、取り組み方に目を向けて、子どもの良さをたくさん発見できるようにしていきます。

